

モノづくりで「復興支援の輪」広げる

官民を挙げた東日本大震災からの復興計画が着々と進められている。国の行政機関、復興庁も設置されるなど体制は整備された。鉱工業生産も回復し、企業も以前の姿に戻りつつある。しかし「復旧」と「復興」では当然意味合いが異なる。その意味ではまだ課題は山積している。中国・四国地域の企業も、少なからず復興に貢献してきた。こうした動きを紹介する。

下水道の改築に寄与

コンパクトな仮排水システム

三興建設



三興建設(広島市安佐北区)、越智剛社長、082-810-3636

が開発した仮排水システ

ム「パスカル君」商品

名」が、東日本大震災の

被災地で活躍している。

装置が必要だった従来シ

ト、工事費などを大幅に低減した。2012年6月に商品化したばかりだ

が、着実に実績を増やしている。

自動真空開閉弁、真空制御ユニット、真空タンクユニット、簡易型バルーンストッパーなどから構成される。汚水の浮力を利用したのがポイントで、パスカルの原理を応用したことから商品名を決めた。駆動源は真空装置のみで、室内までの排水を真空中で吸引・排出する。汚水の浮力を小型ボルバルブを開閉して汚水を真空で吸引・排出する。小型・コンパクトで工事の際に広範囲に交通規制を行う必要もない。復興事業だけでなく下水道管きよも使う必要もない。復興事業だけでも、今後の市場拡大が期待できる。

仮排水システム「パスカル君」

東日本大震災からの復興で、こうした装置の需

が、新たに7人の従業員

が、新たに7人の従業員